



# ぶどうがり

制作 / 天理教少年会本部



(1)

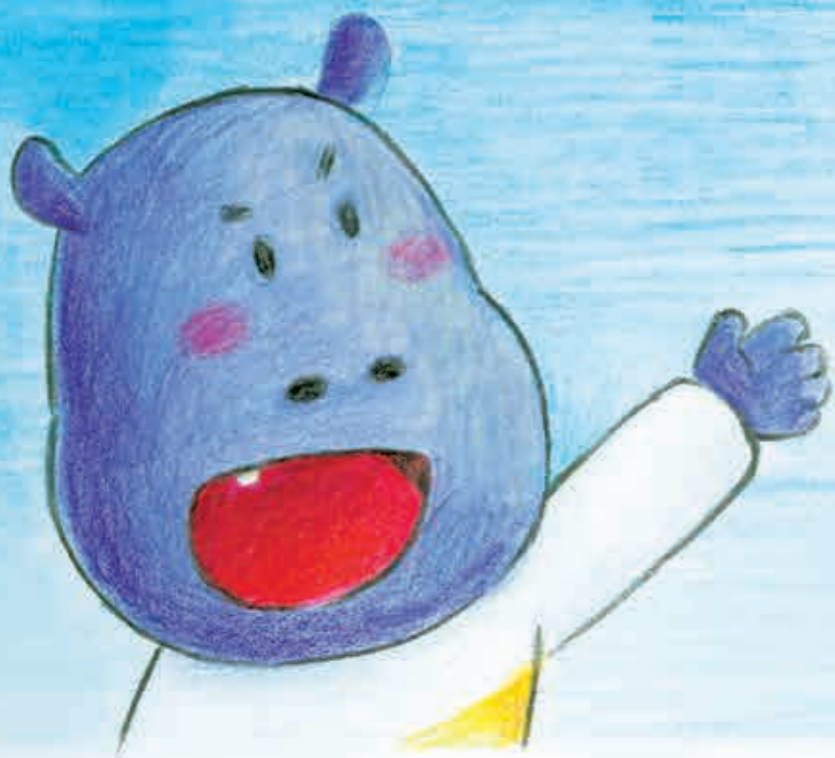
演出ノーツ

今日はみんなが楽しみにして  
いたぶどうがりの日です。

おさるのモン吉くんも、カバ  
のカバ男くんも、やる気マン  
マン

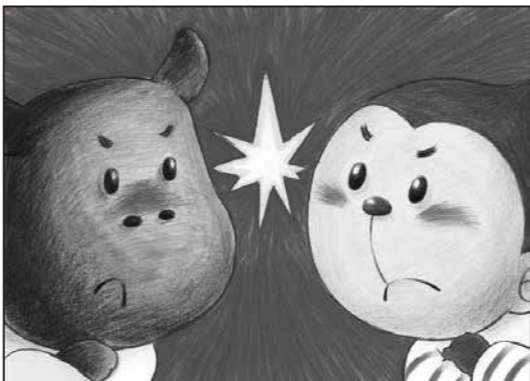
ぬく

葡萄架下



(2)

演出ノート



モン吉「オレが一番大きいブドウを取ってやる」

と、モン吉くんが言う

カバ男「いいや、ボクの方が大きい

ブドウを取るぞー」

と、カバ男くん。

二人はにらみ合い、それぞれブドウを取りに行きました。

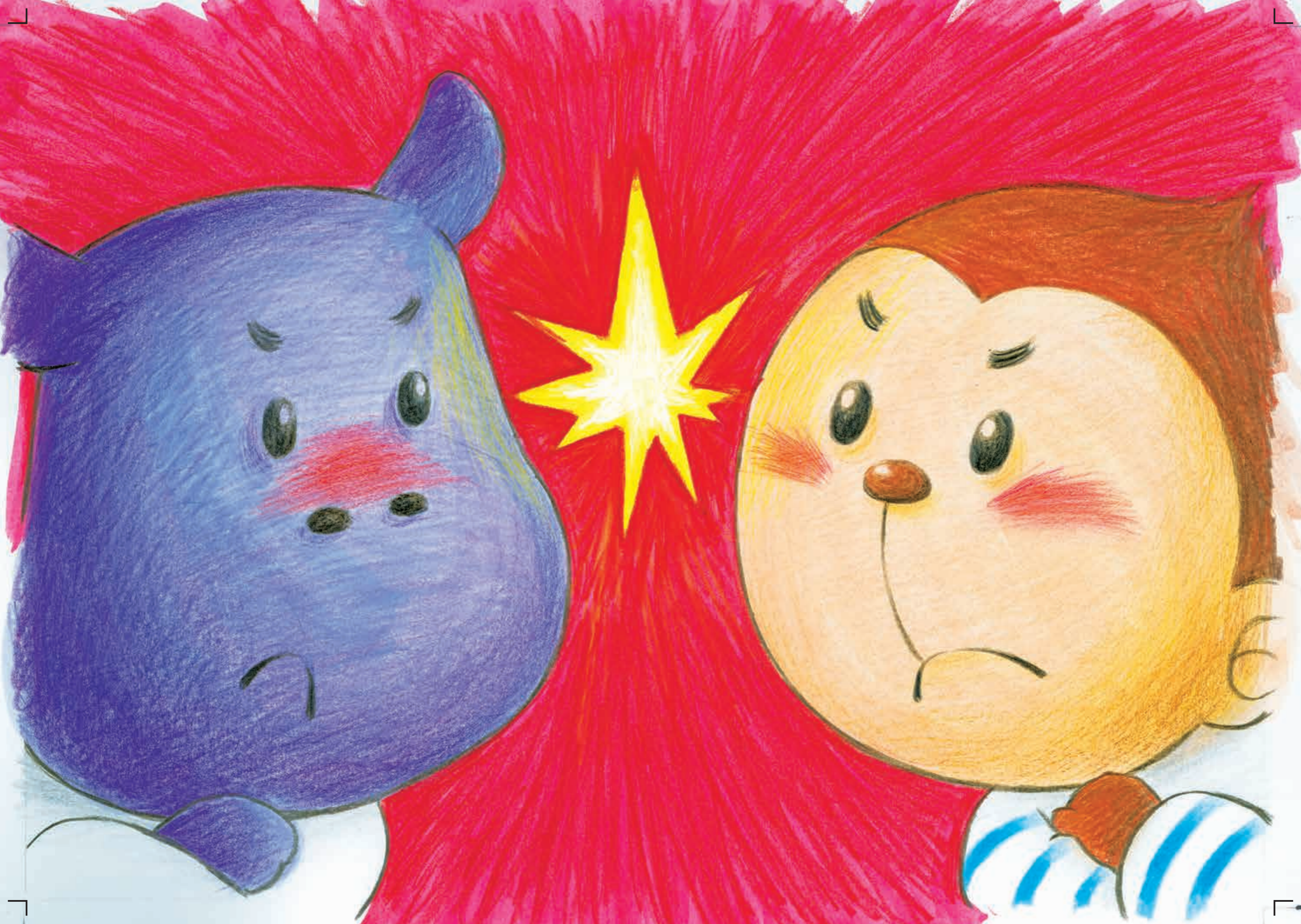
半分ぬく

すると、カバ男くんが早速大きなブドウを見つけました。

カバ男「よし、ボクはこれにしよ

う」

残りをぬく





それを見<sup>み</sup>ていたモン吉<sup>きち</sup>くん (3)

モン吉<sup>きち</sup>「しまった、このままじゃ

カバ男<sup>おま</sup>に負<sup>ま</sup>けてしまう」

と、カバ男<sup>おま</sup>くんの横<sup>よこ</sup>にスツと

近づ<sup>ちか</sup>ぎ、

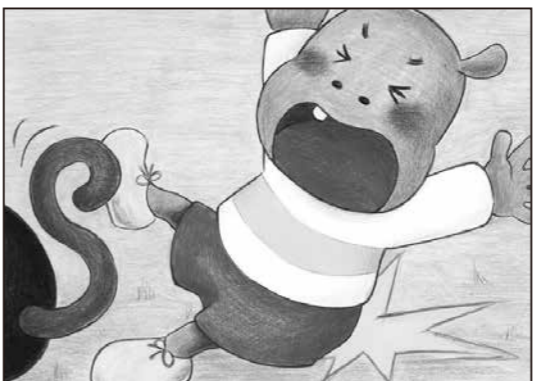
モン吉<sup>きち</sup>「エイッ」

ぬ  
く



ドスン。  
(4)

演出ノート



カバ男<sup>お</sup>「イテテテ」

モン吉<sup>きち</sup>くんのしっぽに引<sup>ひ</sup>っか  
かり、カバ男<sup>お</sup>くんはひっくり  
返<sup>かえ</sup>ってしまいました。

1-3ぬへ

カバ男<sup>お</sup>「何<sup>なに</sup>するんだよモン吉<sup>きち</sup>。」

「んごんごんごんなんなんごんごんごん」

残<sup>のこ</sup>りをぬへ





(5)

モン吉「今のうちだ、それー」

と、モン吉くんは大きいブドウ

ウを探しに行きました。

モン吉「おっ、これは大きいぞ。よし、

このブドウにしよう」

と、手をのばしたとき……。



ぬ  
く





(6)

ピューウウと強い風が吹き、

モン吉くんは飛ばされてしま

いました。

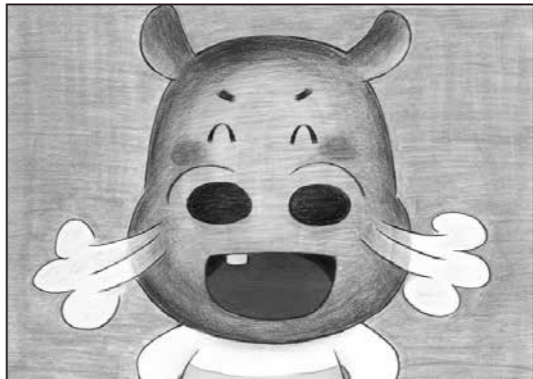
モン吉「イテテテテ、いったいなん

だ、今の風は」

と、まわりを見わたすと……

ぬく





(7)

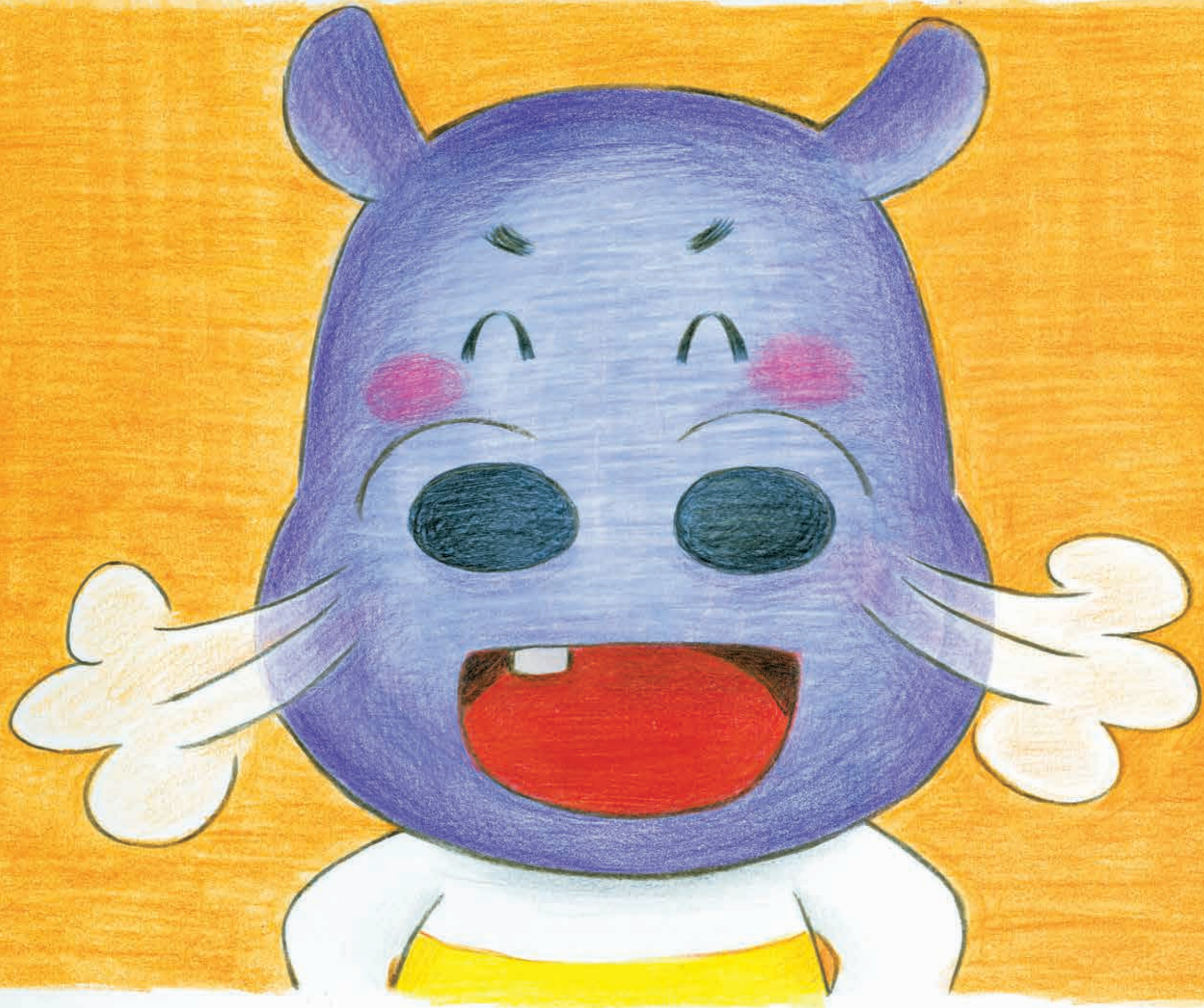
カバ男<sup>お</sup>「へへん。さっきのお返<sup>かえ</sup>しさ」

なんと、カバ男<sup>お</sup>くんが得意<sup>とくい</sup>の

鼻息<sup>はないき</sup>で吹<sup>ふ</sup>き飛<sup>と</sup>ばしたのでし

た。

ぬ  
く





モン吉「よくもやったなあ」

(8)

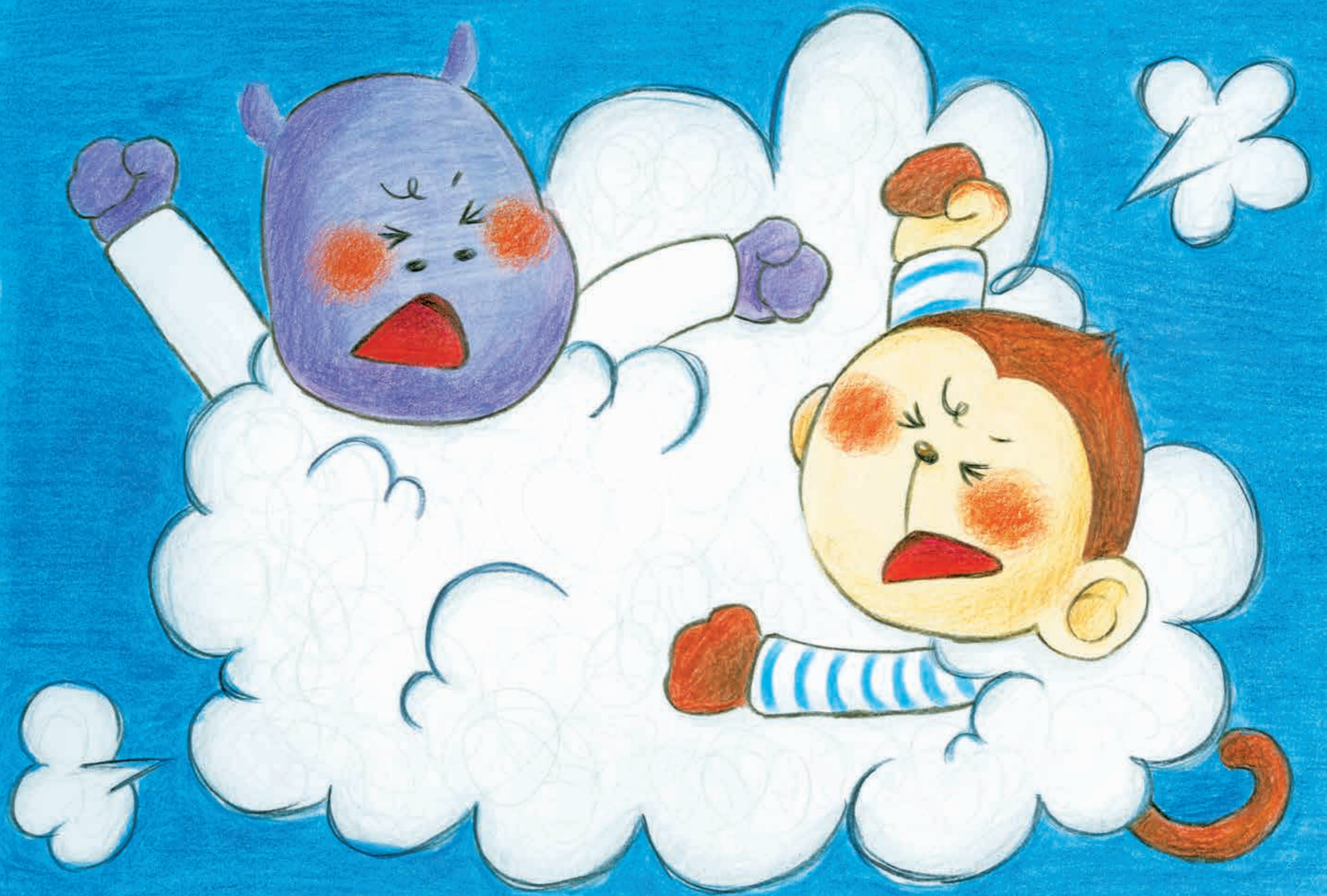
カバ男「そっちが先にジヤマしたん

だろ」

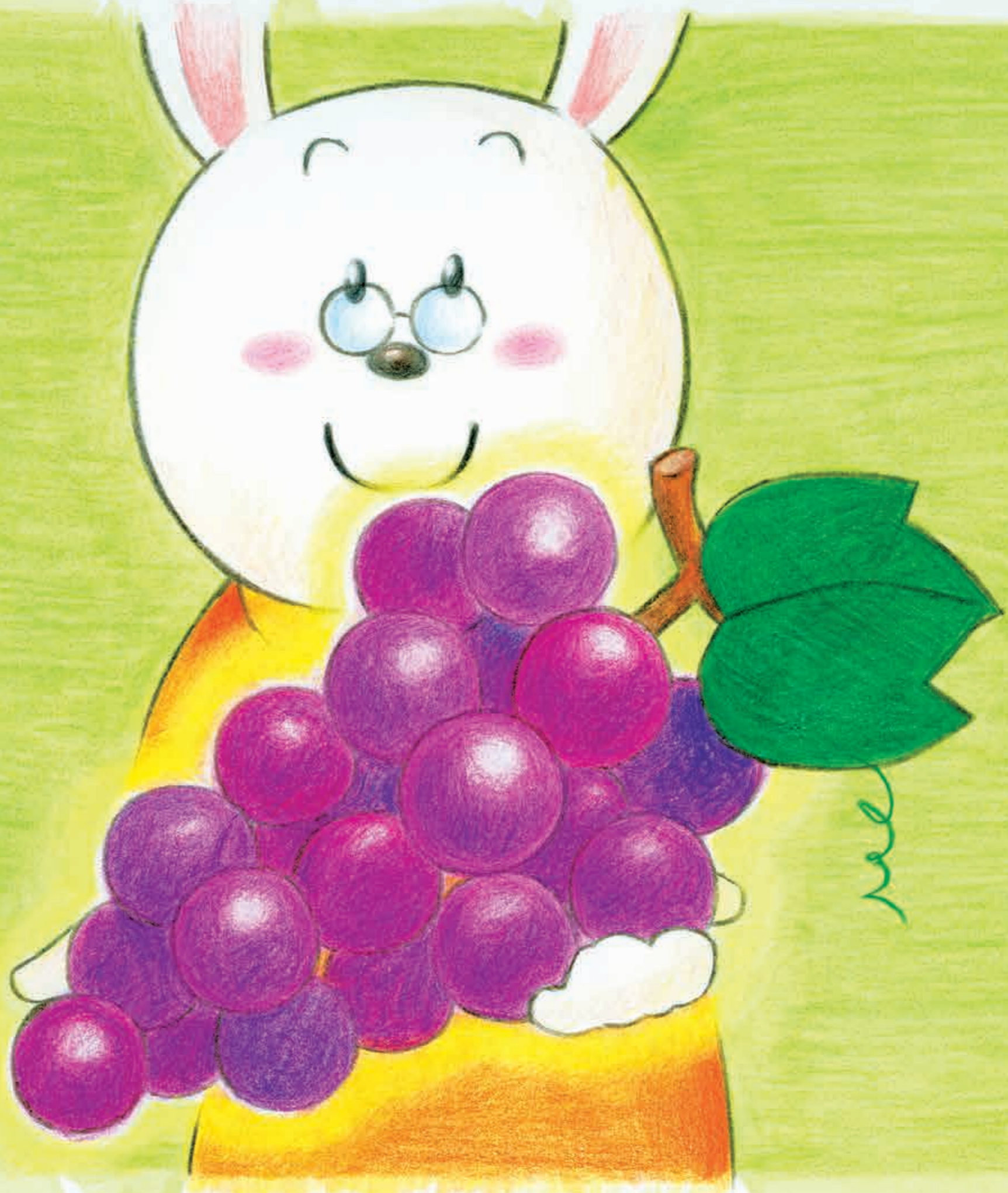
二人はケンカを始めました。

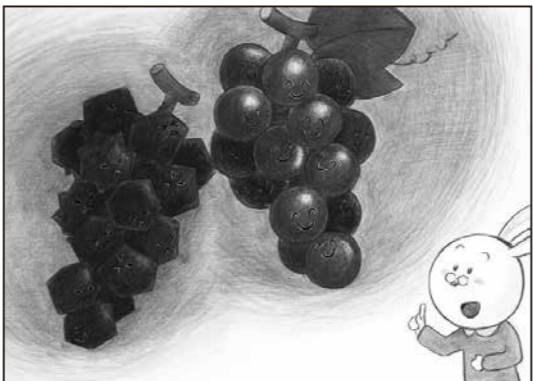
ぬ  
く











先生せんせい「それはね、一粒一粒ひとつひとつが丸まるく

(10)

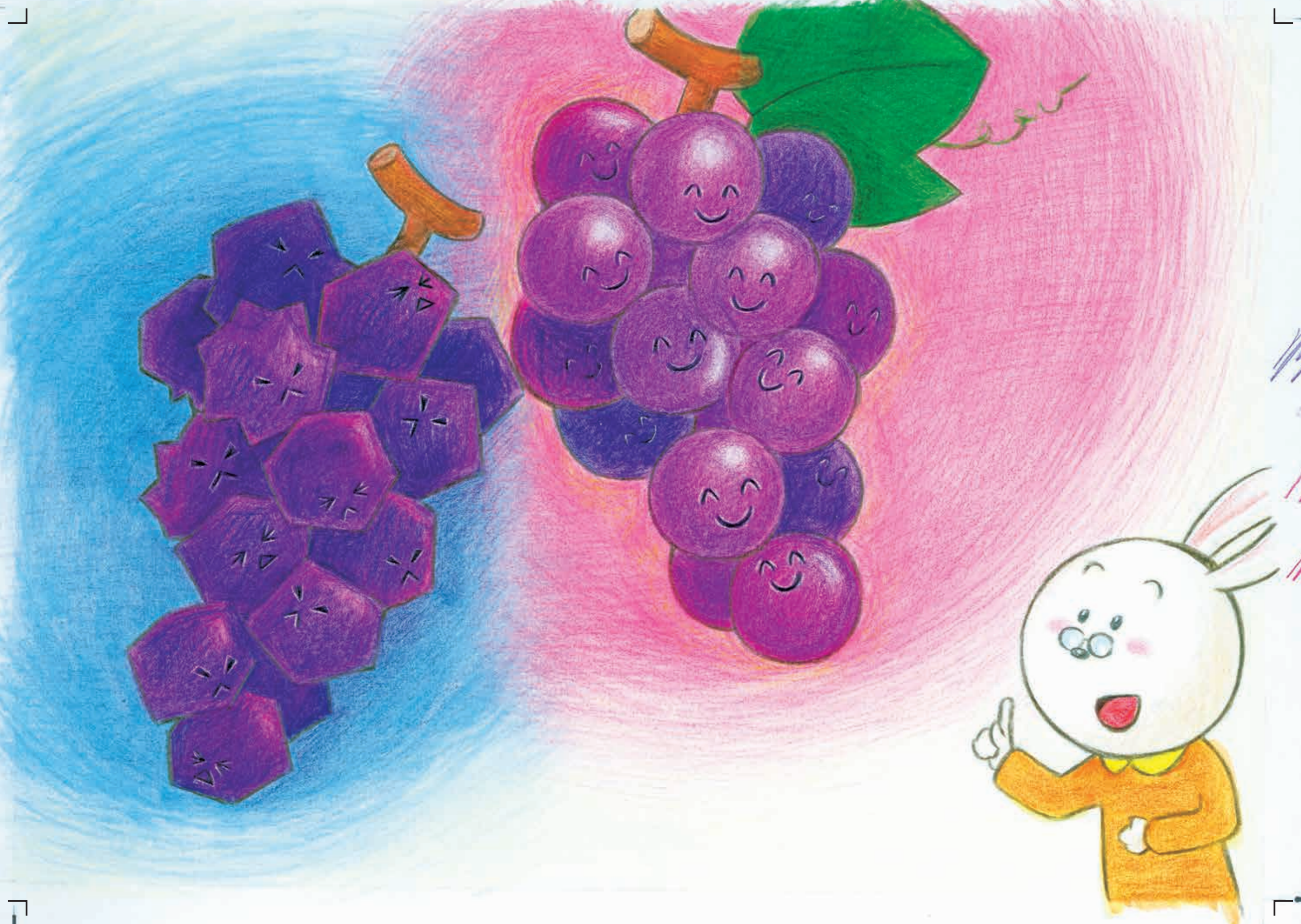
てカドがないからなのよ。

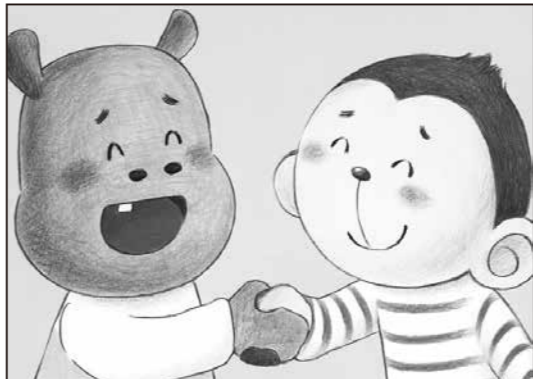
先生せんせいは、二人ふたりにもこのブドウ

のように、丸まるい、やさしい心こころ

になってほしいわ」

ぬく





それを聞いた二人は、  
(11)

モン吉「ごめん、カバ男。オレが悪  
かった。ジャマしてごめんな

さい」

カバ男「ボクの方こそ、仕返しなん  
かしてごめんね。そうだ、

二人で、大きなブドウを取り

に行こう」

二人は仲直りをしました。

ぬく





(12)

モン吉「あつ、あんなところに大き

なブドウがある。」

ふたりは協力して大きな大きな

ブドウを取ることができまし

た。

おしまい



【印刷の手順】 ※両面印刷では順番通りに印刷できません。

① 奇数ページのみをカラー印刷（カラーイラスト面）

② ①で印刷したものの裏に、次頁の【裏表組み合わせ一覧】を  
確認の上、向きに気を付けて偶数ページを印刷

③ 余白をトリム線で切り落とす



④ 紙芝居の順番を整える

※少年会本部では「コツカ再生画用紙」（縦380mm×横270mm）と  
いう厚紙を使用して作成しています。

※カラー面・モノクロ面をそれぞれ別に印刷して、表裏の組み合  
わせを確認の上で、画用紙の両面に貼り付けても作成できます。

※このページは作品の内容と関係ありませんので、印刷しなく  
ても問題ありません。取り扱い説明としてご参照ください。



